

ロゼ

文化情報誌 ロゼ

Art information of Fuji city **Vol.22**
Culture Magazine R O S E **WINTER** 冬号
1998



vol. 22



ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 1998年1月発行 (第22号)
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416-0931富士市蓼原1307番地の8 TEL(0545)60-2510(代)
企画・編集・制作 (財)富士市文化振興財団事業課広報係 アドスペース エービック株式会社

羽田健太郎 & 新星ポップスオーケストラのコンサートは、演奏はもちろん羽田さんの軽快な演出とおしゃれなトークで私たちを楽しませてくれます。



楽しく演奏して、楽しく聴いていただく。それがジャンルのないハネケン流音楽です。

羽田健太郎 & 新星ポップスオーケストラ流のコンサートとは

「僕の音楽は基本的に楽しむもの、音を楽しむから音楽なんです。それがクラシックであり、ポップス、ジャズだったりするわけで、ポピュラー音楽を聴いて感動するのも、ベートーヴェンの「エリゼのために」を聴いて感動するのも同じで、ジャンルを問わず音楽はみんな同じですよ。それには演奏する側も楽しんで演奏しなければなりません。学生時代、桐朋学園の公開レッスンでハンガリーのチェリスト、ヤーノシユ・シユタルケル氏が学生たちに「音楽を演奏することはプレイすること。難しい顔をして演奏してはいないで、もっと楽しく弾きなさい」と言われ、今でもその言葉が印象深く残っています。演奏を楽しむことは、プロでもアマチュアでもいっしょです。ですから僕のコンサートは難し

くない誰でも楽しめるコンサートなんです」。

羽田健太郎流コンサートは楽しく演奏し、観客に楽しさを伝えることからはじまる。新星ポップスオーケストラは羽田健太郎さんのベストパートナーといえます。

「クラシックでも古典的な難しい曲、難解な音楽や現代ものなんかは他の人にまかせて、僕は僕なりのコンサートを行います」。

一日置きの演奏会とメディアの出演など、日本はもとより世界を舞台に活躍する羽田健太郎さん。

地方公演の思い出やエピソードはありますか

「ノー、あまりありませんね。なにしろ移動するだけで、駅からホール、ホールから次の街へと、その土地の文化や風土に接する機会はありません。まったく点

「ハネケンが弾く & 振るライブオーケストラ」をキャッチフレーズに2月21日、「羽田健太郎 & 新星ポップスオーケストラ」の公演がロゼシアター大ホールで開催されます「音楽の楽しさを大勢の人と分かち合いたい」と話す羽田健太郎さん。毎日のようにステージやメディアの仕事に追われお忙しいなか、東京青山での演奏会におじゃまし、羽田健太郎さんのすてきな素顔に触れることができました。

と点を行ったり来たりで…ゆっくりと観光してみたいですね」。

これまで静岡での公演は

「前回浜松で行いましたが、富士は初めてですね、僕も静岡県には縁があつて伊東には年に二〜三回行くんです。静岡の人はいい人ばかりですね。温和で争いごとが嫌いで…。おいしいお茶を飲んでるせいかな。僕もお茶が大好きです」。

羽田健太郎さんは、大の野球ファン、ヤクルトスワローズにはぞっこんです。平成七年の日本シリーズ第三戦、神宮球場のオープニングで羽田さんの演奏がスタジアムに響きました。野球の話になると羽田さんの目の色が変わります。

羽田健太郎さんと音楽との出会いは

「僕の子供の頃の夢はプロ野球選手でした。当時は男の子みんなそうでしたね」。

でも僕は兄弟がいなかったため親は僕に「人とのふれあいの大切さを」教えるため音楽(最初は合唱)を習わせました。それが音楽家になるきっかけですか」。

日本を代表する音楽家も少年時代の夢をまだ追いつけません」。

「実はつい先ほどまでスワローズの野村監督と対談していたんですよ。野村さんは日本一の連覇を狙っています。今までない記録を作ろうとしているんです」。

羽田さんも音楽家として熱い夢を持っています。

「音楽を通して、心の大切さを教えてゆきたいですね、それも小さいうちから」。



新星ポップスオーケストラ
新星日本交響楽団を母体に本格的なポップス・オーケストラとして結成された、エンターテインメント集団。幅広い音楽ジャンルとバラエティーに富んだ選曲と演奏は、気軽にくつろぎながら楽しめるコンサートとして人気が高い。



HANEDA KENTARO

羽田健太郎
桐朋学園音楽部ピアノ科卒業後、ピアニスト及び作曲・編曲家。クラシックの世界で活躍する一方で、映画・テレビのテーマ音楽の作曲、演奏、ミュージカルの音楽監督、コマーシャルの作曲まで手掛けるマルチアーティストとして全国で引っ張りだこの音楽家。

「コンサートを楽しむにしている皆さんにメッセージを」

「ノー、「だまされたと思って来てごらん、音楽の楽しさがわかるすら!」、てどこかな。大勢の人と楽しみたいですね、特に学生に来てもらいたいですね。親子、カップルなどファミリーでどうぞ」。

音楽を心から愛する羽田健太郎さん。「ハネケン」さんと親しまれ私たちに音楽のすばらしさ、楽しさを教えてくれる。その音楽には難しい理屈も定義もない。「プレイミュージック」、それがハネケンのライフスタイルそのものなのです。

羽田健太郎
1998.1月5日

ロゼシアター開館5周年事業

市民創作ミュージカル演出家

三浦克也氏



今年11月1日の公演に向け、レッスン内容も日々密度を増しています。参加者の熱意はそれ以上のものがあり、演出家の三浦克也先生も確かな手応えを感じているようです。そこで、シリーズ第2弾は数々の市民ミュージカルを手掛けてこられた三浦先生に、ご自身の経験に基づいた手づくりミュージカルの魅力や可能性について語っていただきました。

舞台はあくまで娯楽だからお客さんを楽しませることが第一。プロ・アマを問わず、このことは舞台上上がる人間だったら誰もが忘れてはならない大切な「気持ち」なんです。

Interview: MURA KATSUYA

映像上の芝居は音響、照明、あるいは編集技術でうまくみせる仕組みになっていきますが、その演技がそのまま舞台上で通用するかという疑問が残ります。こうした流れについては我々指導者も責任を感じつつ残念なことだと思っています。

また若い人が「頑張ります！命かけます」ってよく言うんです。大変結構なことですが、頑張るのはあくまで稽古場、日頃の練習があってその結果として本番の舞台があるんです。よく本番に強いと言われる人がいますが、それは本番当日メイクを済ませ衣装を着け、大勢のお客さんを前にすることで自分の気持ちが高ぶると高揚してしまい、それでよくできたと錯覚するだけのことであって、稽古場以上の力というのはなかなか出せるものではないと私は考えます。舞台はあくまで娯楽ですから、お客さんに楽しんでもらうことが第一なんです。「命をかける」などという自己満足の世界ではないということなんです。少なくとも、お客さんが千円なり五百円なりのお金を払って時間を割いて足を運んでくれている分の責任をそれぞれがスタッフ、出演者が感じて欲しい、このことはプロ・アマ関係なく忘れてはならない芝居の根本のところなんです。

「役作り」とは、その役柄と自分との間にある共感できる部分を大切にしながらイメージを増幅させていく作業。「役作り」とは、全くの別人格を作り上げてしまうことではないと私は考えます。例えば一つの役を与えられた場合、その役柄に自分を当てはめると、逆に自分の中にその役を結びつけるのと二つの方法が考えられます。私はその役を想像す

るとき、やはり自分の中を通して演じることが大切だと思います。たとえどのよう役作りをしようと、お客さんとしてはその人が演じていることに変わりはないわけで、それならば全くの別人格を作り上げるより、その役柄と自分との間にある共感できる部分を大切にしたい。もし台本を読んで、その役が自分と違う反応をした場合、例えば自分ならとても悲しくなるような場面で、なぜかその役では笑うとするとそこに疑問が生じます。そこから初めて「役作り」が始まるんです。それを全く自分自身を白紙の状態にして役を演じようとする、それこそ演技がバラバラで多重人格者のようになってしまわぬように。そうした意味でも「役を作る」、「演じる」という作業はまず自分の中を一度通してみるの一番いいのではないかと考えています。



参加している子供たちは、いつもパワー全開！

今回応募した皆さんへの「役作り」のアドバイスとしては、お芝居や映画鑑賞、それに小説などを常に読む癖をつけること。例えば小説を読んで魅力を感じた登場人物がいたら、自分ならどう演じるか紙に書いてみるというですね。思い浮かべるだけでなく、どんな

幼い私の舞台への夢案内人は
ドリフの「加藤茶」

幼い思い出ですが、私が最初に舞台を意識したのは、小学生の頃見たテレビ番組「8時だよ全員集合」。「僕は大きくなったら加藤茶になるんだ」と信じていました。中学生の頃は歌手になろうとバンドを作ったりしました。高校卒業後も、芝居への想いが断ち切れず日本工学院的演劇科に進みました。そこでの初めて舞台で運良く主役をやらせてもらって、そうなるのもうやめられませんでした。

学校を卒業後は、賀原夏子さん主宰の「劇団NLT」に入団。当時はまだミュージカルは一般的でなく、ブームの発端となった「劇団四季」の「ゴーストスライム」の登場はもうしばらく後のことです。自身がミュージカルに直接携わるようになったのは、劇団に所属しながら他の主宰するオーディションを受けるようになってからです。当時は男性で歌って踊れて若くて、その上ギヤラが安く済む役者が少なかったんですね。私の場合芝居以外に歌も踊りもバンドやデイスコ通いで身につけた自己流ですが、それで合格できました。そんなことを繰り返していくうちに徐々にミュージカルが面白くなってきたんです。

もともと演出とか監督というものに興味はあつたんでしょうね。出合った一冊な喋り方をするのか、歩き方、自分がない癖などをできるだけ具体的にイメージして書き出してみようなんです。そして暫くしてからもう一度本を読むと、変わっていますよと感じ方が。こういう積み重ねがいい勉強になります。

多くの市民ミュージカルを手掛け、多くの皆さんから「元気」を分けていただいています。

初めて市民ミュージカルを演出した時のことですが、公演を終えて改めて芝居の持つているパワーというエネルギーを感じました。「やはり芝居って楽しいじゃないか！」という芝居の原点を再確認することができたんです。もちろんそれまでには山ほどの苦労があります。プロではありませんからどうしても時間がかります。まず歌を覚え、次に振付をします。するともう歌が歌えないんです。二つのことを同時にできない。そうした部分を結びつけていく作業に非常に時間がかかりました。でも、ミュージカルで初めて出合った人同士が大人も子供もなく、みんな一つのものを作り上げていく姿は演出家としても大きな喜びですね。私にしても連日レッスンが続くと体もきついですが、稽古場でみんなの元気な姿を見ると、不思議と私も元気になります。富士市でも同じことが言えます。これはプロの稽古では決して起きない現象です。

「和モノ」のミュージカルは私にとって大きな挑戦。踊りや芝居のテンポ、場面転換を工夫し、ビジュアル化を図る。今回は「和モノ」で私としても大きな挑戦です。仇討ちという暗いお話に加え

PROFILE

北海道芦別市出身。1958年5月25日生まれ。日本工学院演劇科卒。演技術を加原夏子、モダンダンスを本田重春、タップダンスを萩野幸久、バントマイムを平賀誠吾、ジャズダンスを浦部日佐夫、坂上道之助、永恵春芳に師事。現在、俳優として活躍すると共に演出家、振付師としてミュージカルや演劇、映画、テレビ等で活躍中。主な演出、振付には「掃羅のむかし話」（姫路市）「麗しのサブリナ〜三姉妹物語」（明治生命オリジナルミュージカル）、「島根県民音楽祭ミュージカル/学校ネズミのコンサート」（太田市）、「眠れる森の美女」（カゴメ劇場）ほか多数の作品を手掛けている。

の本にこう書いてありました。「監督になる人間には二つのタイプがある。最初から監督として自己を作り上げるタイプと、一度役者という経験をへて監督になるタイプである」と、その意味では私は後者に属します。なんとと言っても加藤茶に憧れて育った少年ですから。

芝居が扇の要にあって、扇状の広がりの中に歌と踊りがある。ミュージカルとはそういうものだと私は考えています。ミュージカルの構成要素には、歌と踊りと芝居がありますが、基本はやはり芝居です。芝居心の延長で歌い、踊るというのが理想だと思います。もちろんシーンによってはショーアップの必要があったり、言葉よりも歌で表現したい部分があったりします。それはそれでいいんですが、基本形は芝居が扇の要にあって、扇状の広がりの中に歌と踊りがある。ミュージカルとはそういうものじゃないかと私は考えています。ところが不思議なことに日本のミュージカル界では、歌、踊りに比べて芝居が軽視される傾向にあるようです。今テレビや映画と舞台上の芝居との垣根がなくなっています。

て時代劇と現代音楽とのテンポの差、着物ゆえの踊りへの制約などビジュアル的に訴えかける部分が乏しくなりがちです。そこで動きのある場面をいかに見せるか、ダンスや照明、場面転換を効果的に使いついて飽きない作品にしようと思っています。

終わりに私からのメッセージですが、今回のミュージカルを契機にして市民の力でこれを次につなげていくこと、根付かせていくことが大事です。文化ってものは継続させていって初めて文化なんです、三年、五年ごとに何か演るのでは単なる行事に過ぎない。その間隙に市民全体でどんな取り組みをしていくか、そしてそれを十年、二十年、と継続させてこそ本場の市民文化と言えるのではないのでしょうか。その意味でも今回の作品を是非成功させたいと思っています。

NEWS

4月5日・中ホール『三二発表会』開催

選りすぐりの熱い発表会。この日は練習生も大勢参加。発表会では、扇の群舞を披露します。

大勢の練習生が参加。発表会では、扇の群舞を披露します。

発表会では、扇の群舞を披露します。

平成9年度前期自主事業(4月から11月まで)を、それぞれの催物に寄せられたアンケートをもとにフラッシュバックしてみました。(WAKU WAKU通りや本誌中で扱った公演は割愛してあります。) ※サインは出演者からいただいたものです。

FLASH BACK Event Report

第1夜 曾根麻矢子(チェンバロ) 9月15日(月)



VOICE

- 視覚的にも美しいチェンバロと素敵な演奏にうっとりしました。(庵原那30歳代女性)
- 初めて生のチェンバロ演奏を聴くことができました。演奏者自身の楽器説明は興味深く、よく理解できました。(富士市50歳代女性)
- めったに聴けない曾根さんの公演で、東京から来て良かった。音色はまさにフランス。美しく、うまいだけでなく華のある演奏でした。(東京都36歳男性)

第2夜 向山佳絵子(チェロ) 10月18日(土)



VOICE

- チェロは広い音域でいろいろな表情もっていて素晴らしい楽器だと思った。(静岡市20歳代女性)
- シューベルト2曲、極上のワインのごとし。(沼津市66歳男性)
- オーケストラの中でチェロと違って、哀愁に満ちた音色がとても印象的でした。(富士市60歳代女性)

第3夜 山形由美(フルート) 11月29日(土)



VOICE

- これからも山形さんを目標にしてフルートの勉強を頑張りたいと思います。(富士市14歳女性)
- 憧れの山形由美さんの演奏。予想以上に素敵でした。(富士市40歳代女性)
- 深い音楽性と高い技術に裏打ちされた懐の深い演奏は素晴らしい。(富士市50歳代男性)
- 由美さんのコンサートは今夜で86回目です。今回のプログラムではルクレールとタファネルの曲が好きです。(大阪府41歳男性)

ロゼイヴィングコンサート「美しきミュージシャンたちとの出会い」



VOICE

- 久しぶりのオーケストラ、バリトンの演奏を聴けてとても感動しました。お腹の子どもがピクピクと喜んでいて胎教にも良かったです。(富士市27歳女性)
- 軽やかで楽しいオペラ曲から本格的交響曲までシンフォニック・オーケストラの良さを十分に味わうことができました。(三島市68歳男性)
- 井上さんの指揮がとてもユニークでした。(富士宮市18歳女性)
- 福島氏は高音にハリがあり、素晴らしい声なので、ぜひこの人が出演するオペラを観てみたいと思った。(富士市39歳男性)

新日本フィルハーモニー交響楽団 7月10日(木) 指揮：井上道義 バリトン：福島明也



VOICE

- だんだんと忘れかけていた日本の名曲を公演していただくことになり、本当に嬉しく思います。(富士市50歳代女性)
- 青島さんの楽しいおしゃべりとお二人の美しい歌声に時間があっという間に過ぎてしまいました。(長泉町30歳代女性)



VOICE

- 歌のお姉さんに小さい頃からずっと憧れておりました。私も歌って芝居ができて踊れる舞台人…になれたら良いと思いました。(東京都23歳女性)
- 今回のような素晴らしい企画で、昔幼いときに口ずさんだ懐かしい歌の数々を聴き当時の思い出がよみがえってまいりました。(富士市50歳代女性)

日本歌曲の夕べ お話/ピアノ伴奏 青島広志

◆第1夜 4月25日(金) 山口道子(ボーロ) 松本幸二(ボーロ)

◆第2夜 5月30日(金) 斎藤均子(ボーロ) 近藤均子(ボーロ)

◆第3夜 6月25日(水) 小林晴美(ボーロ) 黒田晋也(ボーロ)

VOICE

●池内淳子さんを真近で観ることができて幸せです。おかみさん役がピッタリですね。ますますファンになりました。(富士市40歳代女性)



VOICE

- 涙あり、笑いありとても良かったです。池内さんの年をとらない美しさにビックリ！綿引さんの三枚目のユーモアある役柄も良かったです。(富士宮市47歳女性)
- 粋な演技で素晴らしいかったです。期待通りの池内淳子さんにお目にかかれて嬉しかったです。どの着物も素敵でした。(富士市63歳女性)

松竹特別公演「白足袋の女」 9月7日(日) 出演：池内淳子・綿引勝彦ほか



鮫島有美子「あの頃のうた」 9月18日(木)



VOICE

- 鮫島さんの体全体が楽器のような美しい声に触れることができ幸せでした。(清水市62歳女性)
- 一曲一曲に表情があり、素晴らしい一言につきまします。(富士市20歳代女性)
- 評判通りの美しい声でした。少しも気負わずに歌っていたのはさすがでした。(富士市50歳代女性)
- 「忘れな草をあなたに」は、亡き母が大好きで今晩は歌を聴きながら亡母を思い出しました。(富士市66歳女性)



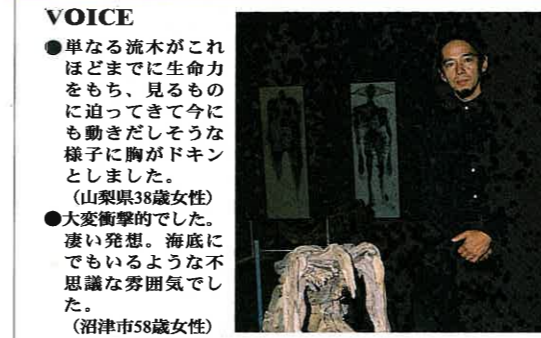
VOICE

- 招待コンサートと同様、毎年行っている小学校前コンサート。今年はエル・コンドル&デュエット・エスぺランサを迎え「コンドルは飛んでゆく」「コーヒールンパ」など南米の音楽を中心に楽しいお話を交えながら演奏し、子どもたちと一緒に歌うなど楽しい時間を過ごしました。

ふじ少年少女芸術劇場 小学校前コンサート 10月27日(月)〜30日(木)



ふじ少年少女芸術劇場 小・中学生招待コンサート 7月2日(水) 7月11日(金)



VOICE

- 単なる流木がこれほどまでに生命力をもち、見るものに迫ってきて今にも動き出しそうな様子に胸がドキンとしました。(山梨県38歳女性)
- 大変衝撃的でした。凄い発想。海底にもいるような不思議な雰囲気でした。(沼津市58歳女性)

岩崎永人展 TORSO 145 未来古代 6月20日(金)〜29日(日)



VOICE

- モノトーンで落ちていて大人っぽい雰囲気でした。花や草の鮮やかな色も美しいけれど、女性の目や髪や口や体、女性の魅力を黒と白の2色で表現してある、“色のない美”のようなものも大変素晴らしいと思いました。(富士市16歳女性)

ピーター・リンダバーグ写真展 4月29日(火)〜5月18日(日)

VOICE

- もっときれいになりたい。そして、きれいな写真撮りたい、撮られたい。(庵原那20歳代女性)
- 人物が発する存在感や雰囲気、豊富なモノトーンの階調で表現されていて圧倒される。(富士市30歳代男性)

TSUMURA REIJIRO



殺生石

能と日本文化

津村禮次郎

能が七百年近い伝統を持つ日本を代表する古典芸能であるといえ、能を少しでも知っている人ならば、全くそのとおりですと答えるでしょう。「のう」と言われてはなだかわからない人は「NO!」と言わざるを得ないでしょう。また能は外来文化ですと言われれば誰方も納得しないでしょう。勿論私も能は日本の誇る舞台芸術(余り芸術と言ふ言葉は使いたくありません)であると信じていますが。

能を少し分解してみよう。するといろいろな要素が見えてきます。謡、舞、楽器、面、装束、それを分解してみても一〇〇%国産といえるものはありません。

能は七百年、いや千年以上の時の経過の中で、時代の変革、文化の潮流の中で磨かれて今日の姿になってきました。現代の私たちが見る能は江戸時代の中頃までに完成された能の姿なのです。

さて私が分解とか分析とか言う意味は、能が能としての形を作られてきた頃を考えてみるとか、完成された様々な技術、そのルーツをたどってみるとどういことが分かるのかということ、そうすれば何かきつと面白い結果がでそうなのがするのです。

たとえば謡を考えてみましょう。日本的と言われる旋律も仏教音楽の影響を大きく受けています。声明(シヨウミョウ)といわれる仏教の音楽は、遠くインドに

源を發し、また西方に向かえば、ローマカトリックのグレゴリアンチャント(聖歌)につながります。能で用いられる楽器、鼓や笛の源流はアジア大陸にあります。しかし世界のどこにもある弦楽器が使われていないのは不思議です。少し考えてみたい気がします。美しいをとり越してきらびやかな能の衣装(装束・シヨウゾクといひます)



能で用いられる楽器

は現代の女性方の和服の美に多大の貢献をしています。しかしその文様や織り方はほとんど外来の物です。能の装束でもっとも美しく華麗なのは、唐織(カラオリ)と呼ばれるものです。その名のとおりに大陸から伝来された織物がそのままの装束の用語として使われています。私たちが最も日本的と考える美しい図柄も、遠くエジプトや中近東から、様々な文化、人間の交流の

ドイツ赤ワインのパラダイス“アール”

内藤 閑喜

アール地域とワイン

アールはボンの南三十キロ、ライン川支流アール川の渓谷に沿って位置する。年間三十万人が訪れる休暇・保養地で山歩き・温泉・ワインで知られる。ドイツ国内十三ヶ所のワイン産地中、北方域(北緯五十〜五十一度)にあり、ブドウ栽培地面積五百二十二ヘクタールは十番目、生産量は全ドイツの1%未満の小規模産地である。

この地のワイン醸造は七〇年に遡る。アールヴァイラー市文書官G・シエーネックは「ワインはこの地域で最も高貴な飲食物」と一六〇二年十一月二十二日に記した。



マイシヨス町 ワイン醸造協同組合 ワイン貯蔵室にあるワイン樽 (同組合は1868年設立、世界で一番古い)

赤・白・ロゼ・バイスヘアブスト

ドイツワインの八五%は白だがアールワインの七九%は赤であり、アールは「赤ワイン産地」として名高い。ここで赤ワイン用ブドウは成熟の遅いブラウア・シユベートブルグンダー種(五一・三%)と成熟の早いブラウア・ポルトギーザー種(一九・二%)が主、白ワインはドイツのNO.1リースリング種がここでも中心である。

ワインはブドウ果汁に酵母を加え発酵させてつくる醸造酒で、色は果皮の色素による。赤ワインは黒系ブドウを破碎後



1997/98アールワインの女王、ザンドラ・ベルテルさん

の温熱を保ち夜間徐々に放出するためブドウの木が日没後も冷えることはない。アールの生産地区は十六ヶ所、ワイン醸造専業・兼業農家は五百三十軒ある。これらの農家は飲食業特別営業権を与えられ年間四ヶ月間酒場レストランとして自家製ワインと軽食を客に提供できる。

ワインと飲用温度

ワイン用ブドウは土質、気候条件、地形構造、酵母菌の質に敏感で同じ品種も地理的条件の相違で全く異なる味香となる。ワインは六百以上の化学成分を含む。特に七つの有機酸とタンニン、糖、炭酸ガスは温度により微妙に味香に影響するため、飲用温度、料理との相性を知ることは重要である。発酵直後の不味いワインも年月の経過とともに円やかな酸味になる。リンゴ酸が乳酸菌の作用で乳酸と炭酸ガスに分解するためである。アール白ワインは九〜十



マイシヨス町のブドウ園

芸術作品としてのワイン

上質ワインに見られる酒石は高濃度のミネラル、酸から生成し、「ワインの宝石」「自然の指紋」と呼ばれワインの質に好影響を与える。偉大なワインは良い材料(ブドウ)、優れた技術(醸造)、適した環境(自然)から生み出される芸術作品である。芸術の理解にはそれなりの努力(ワインの特性を知り飲用条件を把握すること)が不可欠となる。※最近のアールワインの偉大な芸術作品は一九八七年〜一九九七年のもの。

一度C、ロゼとバイスヘアブストで九〜十三度C、標準赤ワインで十四〜十六度C、エクストレ度の高い赤ワインで十七〜十九度Cが最も旨い。白ワインは飲む二〜三時間前に冷やす。赤ワインは飲む前日暖かかない部屋に放置しておく。



著者と大膳神社能舞台(佐渡)

- 津村禮次郎プロフィール
- 昭和35年/ 女流能楽師の開祖、津村紀三子に師事/初舞台
 - 昭和38年/ 初シテ 能「花月」
 - 昭和48年/ (社)能楽協会入会
 - 昭和49年/ 津村紀三子死去により緑泉会会長となる/「翁」を初演
 - 昭和54年/ 第1回小金井薪能を小金井公園で開催
 - 昭和62年/ フランス公演参加
 - 平成 3年/ 夢の遊眠社公演「忠臣蔵」参加、重要無形文化財保持者に認定される
 - 平成 6年/ ロゼシアター「かぐや姫フェスティバル」にて創作能「赫夜(カグヤ)」上演
 - 平成 8年/ シンガポール建国30年記念ジャパンフェスティバル「石橋」公演
 - 平成 9年/ ロゼシアター「能への誘い」を解説

なかで伝えられてきたものが多くあります。能を分解していくと、伝統芸能と言でかたづけられることの出来ない人間の知恵や、つながり、息づかいが感じられてくるのではないのでしょうか。そしてその息づかいは、現代の私たちに未来へのメッセージを託しているように思えます。

- (協力) Touristik-Service Ahr,Rhein,Eifel Bäder-Wein-und Wanderland e.V
- ドイツ13ヶ所のワイン産地
アール、ミッテルライン、モーゼル・ザール・ルーヴァー、ラインガウ、ナーヘ、ラインヘッセン、ヘッスェ・ベルクシュトラーセ、ランファルツ、ヴェルデンベルク、バーデン、フランケン、ザクセン、ザール、ウンストルト
 - ロゼ ROSE
「バラ色の」【薄赤色の】「ロゼワイン」の意。「ロゼシアター」は「バラ色の劇場」(正劇)だが「ロゼワイン劇場」として休憩時のロゼワイン飲用が期待される。
 - 7つの有機酸
○冷やすとまろっと爽やかな酸味、リンゴ酸、酒石酸、クエン酸、酢酸
○温めると円やかに甘くなる酸、乳酸、コハク酸、グルコン酸
 - エクストレ
ブドウの糖分含有量を示す度数単位
十分に発酵していない果汁(モスト)1ℓと純水1ℓの重量差で示される。
多い程ワインは上質となる。フォルトハイムの金細工師フェルディナンド・エクレス(1774-1852)の名からつけられた。

マンドリン製作・演奏家
内藤 閑喜
Yasuyoshi Naitoh ● PROFILE
富士市出身、現在ドイツ・ケルン市在住。海外のさまざまな文化情報を新しい切り口で取材し、レポートを送っていただいています

ROSE THEATRE · EVENT CHECK LIST
1998年2月・3月・4月の催し物のご案内
財団法人主催をはじめ、一般協賛事業を含めたスケジュールです。

INFORMATION

2 FEBRUARY

日	曜日	ホール	イベント
1	日	大	聖書講演会
		中	聖書講演会
		小	ピアノ発表会(篠原・志田)
3	火	小	富士山子供環境サミット
		小	社会保険セミナー
4	水	中	DIY立社フォーラム'98
6	金	大	ハウンド・ドッグコンサート
7	土	小	前島園子ピアノリサイタル
		大	第48回いまじつ幼稚園生活発表会
8	日	中	高千穂会舞踊会
		小	ピアノ発表会(大村知子)
9	月	小	みどり環境美化を推進する富士市民の会総会
		大	富士子ども劇場例会「ニールスのふしぎな旅」
11	水	中	富士市三曲協会第3回定期演奏会
		小	映画「秋桜」県内縦断ロードショー
12	木	大	富士高校芸術鑑賞会
		中	第21回富士市PTAのつどい
		小	邦楽への誘い 第2回
		大	第29回富士見高校吹奏楽定期演奏会
15	日	中	親子まんが映画会
		小	ピアノ発表会(勝又祐紀子)
20	金	小	'98地域環境フォーラム
21	土	大	羽田健太郎&新星POPSオーケストラ
		小	★アニメーション「どんぐりの家」上映会
		大	末日聖徒イエスキリスト教会大会
		中	第18回八十の会音楽演奏会
		小	富士ワイズメンズクラブ10周年記念式典
		小	ピアノ発表会(鈴木敦子)
23	月	小	平成10年度富士野球連盟総会
25	水	中	青葉台小学校入学・開校説明会
		小	富士地域幼児交通安全 対策研修会
27	金	小	オープン化粧品東海本部平成10年上期総決起大会
		中	講演会 講師:渡辺淳一
28	土	小	静岡県池坊教授者研究会

3 MARCH

日	曜日	ホール	イベント
1	日	中	「魅力ある吉高づくりを推進する会」講演会
		小	倫理文化講演会
3	火	小	社会保険セミナー
5	木	小	富士・富士宮地区保護司会合同研修会
7	土	小	静教組 富士支部定期大会
		大	マスクプレイ・ミュージカル「ピノッキオ」
8	日	中	自治体消防50周年記念富士市消防音楽隊演奏会
		小	ピアノ発表会(秋山理津)
9	月	大	吉原第一中学校芸術鑑賞会・3年生を送る会
		中	吉原小学校吹奏楽部「思い出のコンサート」
14	土	小	邦楽への誘い 第3回
15	日	小	ピアノ発表会(佐藤弘恵)
17	火	小	音川健二チェロリサイタル
18	水	中	常葉学園富士短期大学第7回卒業式
		小	退職予定者説明会
20	金	小	アミーケ・ピアチェーヴォリ演奏会
		中	落語会(林家こん平・三遊亭小遊三)
21	土	小	ピアノ・フルート発表会(西山絵美子)
		大	富士東高校吹奏楽部定期演奏会
		小	ピアノ発表会(藤巻由美子)
23	月	小	吉原小学校吹奏楽部コンサート
		小	桐朋学園大学付属音楽教室富士教室おさらい会
		中	吉原高校吹奏楽部第6回定期演奏会
24	火	小	ロゼ・ピアノコンクール予選
		小	スズキメゾピアノ科卒業演奏会(東部)
26	木	小	富士市青少年指導委員会総会
27	金	小	富士高校吹奏楽部第22回定期演奏会
28	土	小	ピアノ発表会(馬飼野・遠藤)
29	日	大	★由紀さおり・安田祥子童謡コンサート
		小	ピアノ発表会(佐藤和美)
30	月	中	親子まんが映画会
		小	ロゼ・ピアノコンクール本選

※一般貸出事業については、平成9年12月上旬までの受付分です。
各ホールでのイベントや展示などの日程は変更になる場合があります。
★はロゼシアター主催事業★ロゼチケットセンターでもチケット扱う予定

4 APRIL

日	曜日	ホール	イベント
1	水	中	マリノバ・ランド第5回記念定期演奏会
3	金	大	ステップス公演
4	土	小	ピアノ・エレクティーン発表会(米山直子)
		大	ネットワーク・マーケティング・セミナー
5	日	小	スプリングコンサート(萩原明美)
11	土	中	「おわら風の盆」と文学
12	日	小	詩吟発表会
13	月	大	★梅沢富美男特別公演
14	火	大	ウィーン少年合唱団
18	土	大	★加藤登紀子コンサート
		大	日蓮正宗法華講連合会静岡地方部第5回総会
19	日	中	ヴォーカル・コンサート
		小	ピアノ発表会(アリスの会)
22	水	小	★第32回ロゼ寄席
		大	マルダインショー
25	土	小	ピアノおさらい会(小塚寿子)
		大	黒夢コンサート
26	日	中	「ミザリー」市村正親・白石加代子
		小	竹の会ピアノ発表会
29	水	小	ピアノ発表会(河野絵美)

ここが見どころ
イベントガイド
天使のうたえ
ウィーン少年合唱団
4月14日(火) 大ホール



●開場/18:30
●開演/19:00
●入場料/一般4000円
(全席指定) 学生2000円

EVENT Report



VOICE
●ロゼで毎年バレエを観ていますが、毎回ダンサーの方々のテクニックと体力には感動と驚きを覚えます。
(富士市三十歳代女性)
●エネルギーを感じてあふれていて、素晴らしいバレエだったと思います。日本との文化の違いも楽しませていただいたと思います。
(富士市五十歳代女性)

●なんだか夢の中を漂っているような心地。帰りの車も空を飛ぶんじゃないかという感じがします。
(富士市二十歳代女性)
●演出が良く、舞台装置、美術や衣装も凝っていて臨場感あふれていた。
(清水市五十歳代女性)
●言葉でなく、しぐさ、音楽でいろいろな感情が伝わってくるものだと知りました。
(沼津市二十歳代女性)



VOICE
●指揮:ラファエル・ブニエック・テナルゴス
●ヴァイオリン:前橋汀子
●情熱的で、時には優しく美しく雅やかなヴァイオリンの音色とオーケストラの演奏に息詰まる思いで引き込まれました。
(富士市五十歳代女性)
●全身で表現する前橋さんのヴァイオリンは大変感動いたしました。質の高い演奏を聴くことができました。
(富士市五十歳代女性)



◆公演レポート (世界の芸術を目の当たり)



ロゼ・ピアノコンクール'98
出場者募集のお知らせ
日頃ピアノを勉強している皆さんの研鑽の成果を披露する機会にも、お互いに刺激しあい、励ましあつて、ピアノの演奏を向上させていくためにピアノコンクールを開催いたします。そこで、下記の要領で出場者を募集します。
皆様の参加をお待ちしております。

開催日時/予選 3月24日(火)
本選 3月30日(月)
会場/ロゼシアター 小ホール
部門・参加資格
学生の部 A 小学校3年~高校3年
B 中学校2年~高校2年
(ただし音高生はBのみ)
一般の部 A 高校卒業以上
B]
参加料/学生の部 10,000円
一般の部 15,000円
申込み方法/申込み用紙に必要事項を記入の上、参加料を添付し、その振込み控えを添えて専用封筒にてお送りください。
(申込み用紙は、ロゼシアター・すみや富士本町店にあります)
申込み期間/2月1日~2月25日
(事務局必着のこと)
●申込み・問い合わせ先/富士市本町8-7
すみや富士本町店楽器フロア内
ロゼ・ピアノコンクール事務局
TEL. 0545-63-2233
FAX. 0545-63-5235
主催/ロゼピアノコンクール'98実行委員会

展示室のご案内

展示期間	展示室	催事
1/31~2/1	一般・特別	小中学校図工美術展
2/3	一般・特別	富士山子供環境サミット展
2/4~5	一般・特別	クリナップ静岡 新商品発表会
2/7~22	一般・特別	ふじの芸術家たち
2/27~3/1	一般・特別	第5回「魅力ある吉高づくり展」
3/5~8	一般	富士・富士宮地区高等学校新春書作品展
3/5~8	特別	墨炎展(高橋三洲・深澤和子二人展)
3/9~15	一般・特別	顧哲剛水墨画師展

展示期間	展示室	催事
3/20~24	一般・特別	富士市女流書作会展
3/26~29	一般	モモクリグループ展
3/26~30	特別	原色押し花展
4/2~5	一般・特別	富士美術研究所作品展
4/10~13	一般・特別	小原流富士支部25周年記念華展
4/15~19	一般	第6回富士アート・フォーラム展
4/21~26	一般・特別	富士の型染展
4/29~5/10	一般・特別	朝日陶芸展



●尺八
●楽器(表紙)インタビュー
大久保重忠さん(富士市在住)
三曲協会の会長として邦楽の普及に取り組まれている大久保重忠さん。富士市消防長という重責がある一方、大久保保長という琴古流尺八の名手でも知られています。始めたきっかけは、「仕事がありました。始めたきっかけは、尺八は心を落ち着かせる、精神力を養うために始めました」とのこと。尺八を続けながら、富士市消防音楽隊の結成に携わり、また楽団の指揮者としても長年にわたって活躍されました。これからは後進の育成に力を注ぐという大久保さん、尺八を吹くキリッとした姿が印象的でした。

●ロゼネット
本号巻頭を飾るインタビュー、年末多忙のなか羽田健太郎さんを訪ねお話をうかがいました。リハサル終了後「どうも、どうも」と現われたハネケンさん。イメージどおりとても好感のもてる人柄、写真撮影をお願いしたところ最後に「あつと驚くひょうきんボーイズ」(語面で掲載できないのが残念)「楽しいコンサート」とはハネケンさんそのものなのです。(編)

チケットのお申し込み・お問い合わせは
ロゼ・チケットセンター
☎0545-60-2500 受付時間 9:00~19:00

■すみや 富士本町店 ☎(0545)63-2233 富士中央町 ☎(0545)60-4567 富士駅前センター ☎(0545)61-6262 ラ・ホール富士 ☎(0545)53-4300	■チケットセンター 沼津 ☎(0559)61-2405 カワセ書店 鷹岡店 ☎(0545)71-9592 富士宮・宮原店 ☎(0544)24-7160 タンザワ楽器富士支店 ☎(0545)52-1586	■ユニサービスカウンター 吉原店 ☎(0545)51-9027(代) 富士宮大宮店 ☎(0544)24-0255(代) 三島店(マイジン) ☎(0559)73-3003
---	---	---

☆ロゼシアターホームページアドレス <http://www.city.fuji.shizuoka.jp/~rose/> e-mail rose@city.fuji.shizuoka.jp
みなさんとロゼを結びホットライン! イベント情報・館内施設・トピックなど盛りだくさんの内容です。

INTER MISSION

ベルリン放送交響楽団公演より
静岡大学 管弦楽部
バイオリン担当
原性(左)・平田(右)・水本(右)さん(全より)



プラームスのプログラムが聴きたくてロゼに来ました。
前橋汀子さんのヴァイオリンは、すばらしくとても感動しました。
これからの部活動の参考になります。

「初めてロゼシアターに来て、こうした本格的なコンサートも初めて。今まで僕たちが知っている音楽とは別世界を見て(聴いて)言葉には言い表せないほどの感動です。本当にすごかった」とひとこと。

ポリショイバレエ団公演より
寺田 麗子さん・悠さん
野村 勇さん・好子さん



寺田さんは「八十の会」の代表として、ロゼシアターオープン以来多く利用されています。この日はバレエを習っている娘の悠さんとバレエ鑑賞。
悠さんもロゼの舞台上でプリマを夢んでいます。

昨年、定年を迎えた野村ご夫妻。これからいろいろな所へ出掛け、いろいろなものを見たいと今日の公演を心待ちにされていたそうです。
チケットを息子さん夫妻にプレゼントされたという、とても心むお話をうかがいました。